天理市文化財だより

天理市文化財だより Vol.35

特集１

50年前の天理

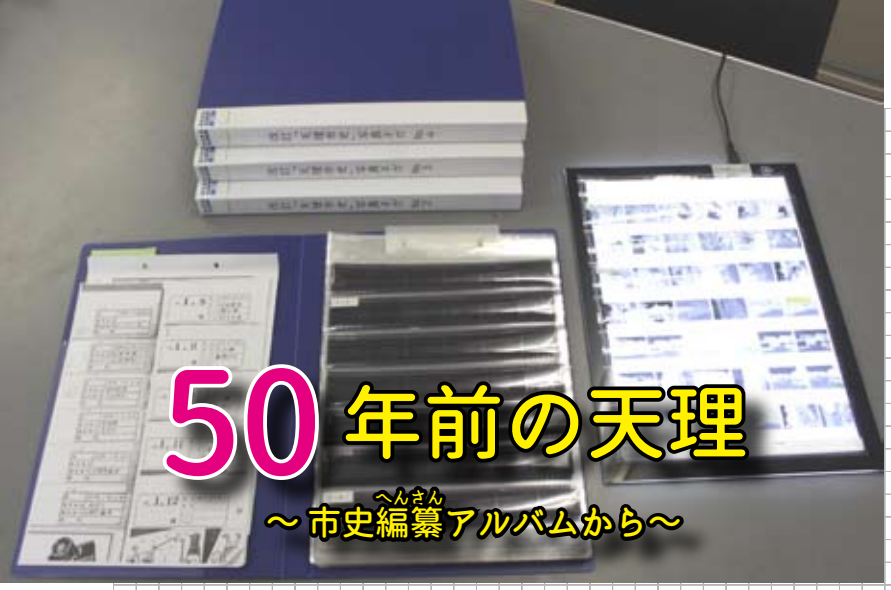
～市史編纂（へんさん）アルバムから～

特集２

令和５年度発掘調査速報

2025.3 天理市教育委員会 文化財課

天理本通商店街アーケード（1975.7.27）



50年前の天理

～市史編纂アルバムから～

『改訂天理市史』［昭和51（1976）年刊］が刊行され、間もなく50年になります。市史編纂のためにおこなわれた調査では、市内の何気ない風景や人々の暮らしを写した数多くの記録写真が残されました。文化財課が保管する市史編纂アルバムから、50年前の天理の様子を振り返ります。

市史編纂アルバム（2025.2.10）
調査記録写真は昭和48～50（1973～75）年に撮影されました。家庭用カラーフィルムは当時既にかなり普及していましたが、調査記録写真はほとんどモノクロフィルムで撮影されています。内容は行事・風景・文化財などで、通常被写体とはなりにくいものも多数選ばれました。現在、市文化財課が保管するアルバムには6,000カット以上の35mmモノクロネガフィルムが残されています。

天理駅とその周辺（1975.10）
現在地に天理駅が移転したのは昭和40（1965）年。写真は開業後10年を経た駅周辺の姿です。駅前本通商店街のアーケードは現在よりやや短かったことが分かります。

賑わう天理本通商店街（1975.7.27）

川原城町交差点周辺（1975.10）
写真中央は天理市役所、写真右上は当時の丹波市小学校です。丹波市小学校が現在地に移転したのは昭和54（1979）年、天理市役所が今の建物に建て替わったのは昭和59（1984）年のことでした。交差点の歩道橋は今なお健在です。

天理駅前広場（1975.7.27）
当時の駅前広場には照明塔や噴水の姿が見えます。現在は天理駅前広場コフフンが整備されています。

天理教の参拝者輸送（1975.4.26）
天理教の祭礼日には各地からの参拝者が鉄道やバスで天理に集結しました。

中山町から東方を望む（1975.11.5）
稲刈りが終わった田んぼでは、稲架に稲束を掛けて天日と風で乾燥させる「稲架掛け」をしています。現代では省力化が進み、あまり見かけなくなった農村風景です。

柳本町長岳寺とその周辺（1975.10）
写真右が長岳寺。写真中央の長岳寺門前には天理市ユースホステル「山の辺の家」がありました。現在、跡地には市トレイルセンターが整備されています。

天理ダム建設現場（1975.10.27）
天理ダム建設工事が本格化したころ。布留川を堰き止めるダム工事は昭和54（1979）年に完成しました。

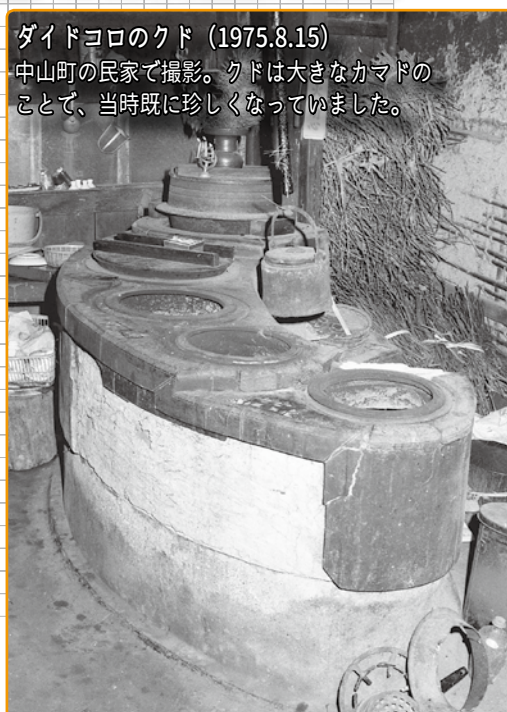
非電化時代の国鉄桜井線（1975.4.25）
桜井線が電化されたのは昭和55（1980）年3月のこと。後方には大和神社の社叢が見えています。

石上神宮ふる祭の渡御行列（1974.10.15）
写真右の建物は当時の丹波市郵便局で、その後近隣に移転しました。

国道24号線二階堂バス停付近（1975.8.6）
二階堂上ノ庄町の歩道橋から北を撮影。当時国道24号線には奈良～橿原方面を結ぶ路線バスが1日80本以上走っていました。

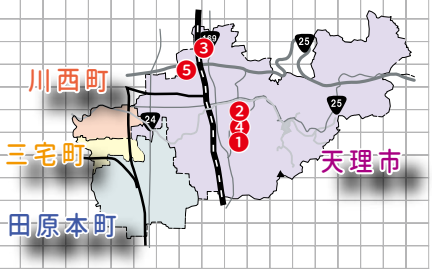
山間部の農村風景（1975.5.9）
乗用トラクタで田植え前の代掻き作業をおこなっています。

田植え（1975.5.10）
重労働であった田植えは昭和40年代末から機械化が進みましたが、この写真（撮影地不詳）には女性たちによる手植えの様子が記録されています。



ダイドコロのクド（1975.8.15）
中山町の民家で撮影。クドは大きなカマドのことで、当時既に珍しくなっていました。

令和５年度発掘調査速報



天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は令和５（2023）年度におこなった３件の発掘調査と、天理大学との共同調査１件をご紹介します。

❶ マバカ古墳第４次　❷ 東乗鞍古墳第８次
❸ 長寺遺跡第 19 次　❹ 成願寺遺跡第 24 次　❺ 荒池遺跡第１次

マバカ古墳 第４次

まばかこふん ❶

期間　令和６年１月 15 日～
令和６年２月 16 日

マバカ古墳は天理市萱生（かよう）町・成願寺（じょうがんじ）町にまたがって所在する前方後円墳で、古墳時代前期前半に築造されたものと考えられています。令和３年度には航空レーザ測量を実施し、令和４年度からは天理市教育委員会が発掘調査を開始しました。

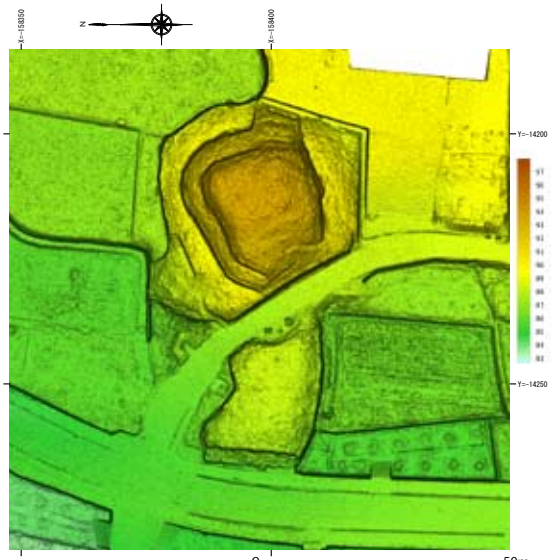
昨年度に引き続き、今回も古墳の北側くびれ部付近で発掘調査をおこなったところ、昨年度と同様に拳大（こぶしだい）程度の礫（れき）の散布を確認しました。礫群の下の層から、さらに後の時代の土師器片が出土したため、この礫群は古墳の葺石（ふきいし）が墳丘から転落してきたものと思われます。また、調査区南端では大きさ 30cm ～ 40cm の、２列からなる葺石の基底石（きていせき）を検出しました。基底石列は調査区を東西に横断する形で緩やかに弧を描いており、古墳時代前期前半に築造された古墳に共通する特徴を持った墳形であったと推測されます。

南から見たマバカ古墳

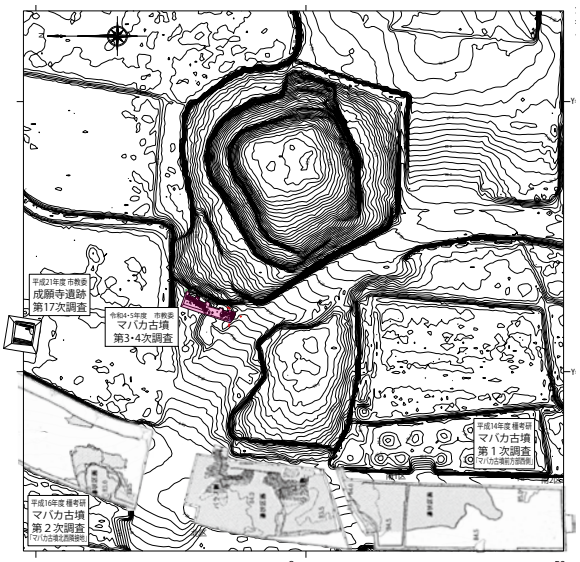
マバカ古墳（左が北）

調査区全景（左が北）

葺石検出状況（北西から）



マバカ古墳標高段彩図



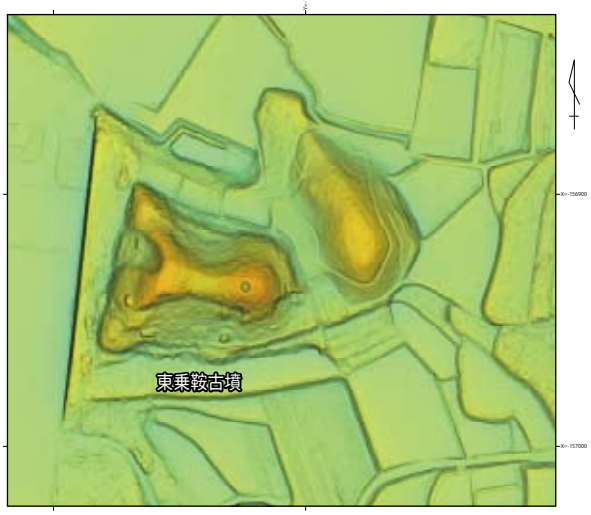
マバカ古墳調査区配置図

東乗鞍古墳 第８次

天理市教委・天理大学共同調査

ひがしのりくらこふん ②

期間　令和６年２月 12 日～
令和６年２月 29 日

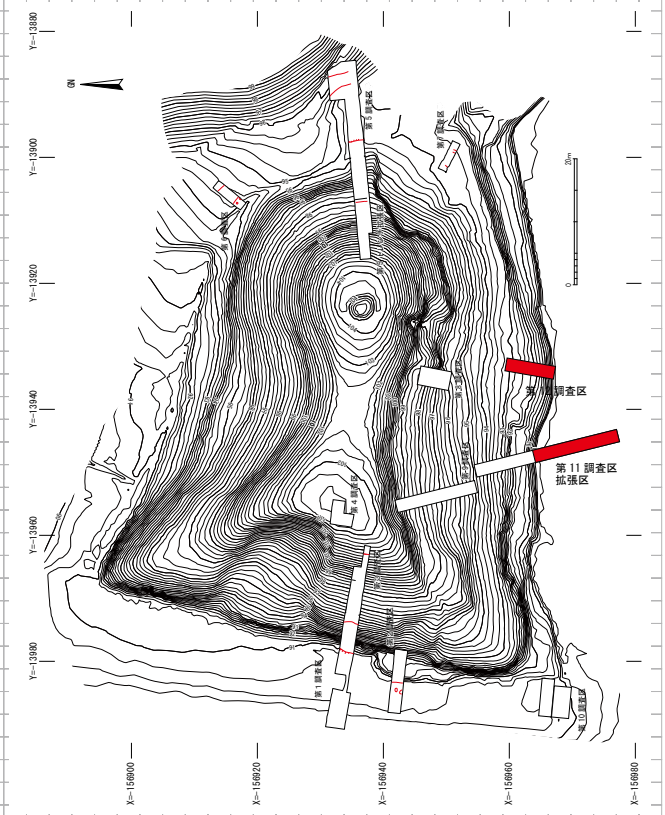


東乗鞍古墳地形起伏図

前方部南側の外堤（第 11 調査区拡張区）

東乗鞍古墳は乙木町（おとぎちょう）に所在する前方後円墳（ひがしのりくらこふん）で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。平成 29 年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第８次調査では、主に前方部の南側を調査しました。

今回は前方部南側の墳丘から水田にかけて調査をおこないました。周濠（しゅうごう）や外堤（がいてい）が見つかっており、外堤は土嚢（どのう）を積んだような特徴的な構造でした。



東乗鞍古墳調査区配置図

地理院タイルを加工して使用

長寺遺跡
第 19 次

おさでらいせき

③

期間　令和５年９月６日～
令和５年９月 29 日

長寺遺跡は天理市櫟本（いちのもと）町・楢（なら）町一帯に広がる、弥生時代～平安時代にかけての遺構が確認されている遺跡です。宅地造成に伴い、長寺遺跡のやや西寄り、長寺廃寺（おさでらはいじ）跡の北西角付近で調査をおこないました。

調査では、調査区中央付近で北西～南東方向の流路（谷筋）を検出しました。これは、以前の調査で見つかっていた流路の延長上にあたるとみられます。流路からは弥生時代中期の土器が多く出土しましたが、さらに後の時代の遺物も含まれており、徐々に流路が埋没していった様子がうかがえます。

一方、調査区北半では奈良時代～平安時代の土器・瓦等を多く含む東西方向の溝を検出しました。以前の調査で検出した長寺の北辺を区切る溝よりは少々南寄りの場所ではありますが、墨書（ぼくしょ）のある土師器（はじき）皿も複数点出土しており、この溝も長寺廃寺に関係する遺構と推測されます。

調査区全景（南から）

自然流路（西から）

流路内から出土した弥生土器

長寺に関連する可能性のある溝（西から）

溝内から出土した墨書土器

成願寺遺跡 第24次

じょうがんじいせき

④

期間　令和５年９月25日～
令和５年10月２日

　携帯電話基地局の建設に伴い、発掘調査をおこないました。調査の結果、ヒエ塚古墳築造以前に埋没したと考えられる谷筋を確認しました。埋土には多くの５～30cm大の礫（れき）を含み、遺物は出土していません。調査地近隣の調査では同じような落ち込み等を検出しており、それらは一連のものと考えられます。

谷筋の堆積（西壁・北東から）

調査風景

荒池遺跡 第１次

あらいけいせき

⑤

期間　令和６年１月９日～
令和６年２月28日

　櫟本町内で工場の建設に伴い、発掘調査をおこないました。

　東調査区では、古墳時代中期～後期の溝２条と、多数の小穴を確認しました。溝２条は調査区中央付近で東西方向に検出し、埋土中からは古墳時代中期～後期の土器片が多数出土しています。また、小穴は位置関係から建物の柱穴となる可能性があります。小穴から出土した遺物が小片のため時期の特定はできませんが、おおむね古墳時代中期以降になると思われます。

　西調査区では、溝３条とそれに並行する掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもの）１棟、小穴、土坑を検出しました。溝３条は重複していますが、いずれも調査区の西から南にかけて検出しており、時期は古墳時代中期～後期頃になると思われます。また掘立柱建物跡は２間×３間の規模で、溝に並行して検出しました。遺物は小片が少量出土したのみであるため、時期の特定はできませんが、溝に平行していることから、溝と同時期の古墳時代中期～後期に該当すると考えられます。

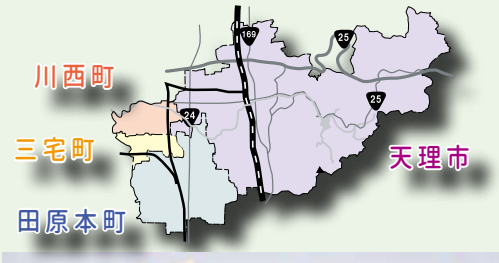
東調査区全景（北から）

西調査区　掘立柱建物跡

地理院タイルを加工して使用

大和まほろば広域定住自立圏

天理市・川西町・三宅町・田原本町は文化財の保存と活用について広域連携による取り組みを推進しています。各市町の文化財の話題をお伝えします。



天理市　『改訂天理市史』刊行から、もうすぐ50年

本誌p.１～３で紹介した市史編纂アルバムは、昭和51（1976）年に刊行された『改訂天理市史』の編纂のために撮影された調査記録写真のアルバムです。『改訂天理市史』は上下２巻・史料編１～５巻・付録からなり、天理市の歴史・宗教・人物・地理・民俗・文化財・文学など多方面にわたって詳述する郷土史の基本文献です。

『改訂天理市史』は天理市立図書館や各地の図書館などで閲覧することができるほか、天理市教育委員会事務局文化財課で現在も購入することができます。

■天理市　『改訂天理市史』

川西町　ゴウシンサン

川西町内には「太神宮」と刻まれている石灯籠が数多くあります。「太神宮」とは伊勢神宮を指し、江戸時代に盛んだった伊勢講の関連施設です。

川西町では「ゴウシンサン」と呼ばれ、２基並んでいる地域もあります。川西町内では金毘羅、愛宕の灯籠もあり、複数の講の存在を示唆します。７月中旬の夕刻に、ゴウシンサンの前に地域の子ども達が集まり、行事がおこなわれます。地域によっては終了後に子ども達にお菓子が配られます。

■川西町　ゴウシンサン（左は金毘羅）

三宅町　三十八柱神社

三十八柱神社は、三宅町小柳の北西部、盆地内の多くの河川が大和川に合流する地域に鎮座しています。この立地的な特徴が、水の神である「水波能売命」を御祭神として祀るようになった要因の一つかもしれません。

本殿は、最も古い建築様式のひとつである神明造で建てられています。伊勢神宮式年遷宮の際、伊勢神宮別宮「伊雑宮」所管社である佐美長神社本殿の部材が下付され、明治44（1911）年に復元されました。その後、大正８（1919）年には、本殿と同じ神明造の拝殿が建てられました。

■三宅町　三十八社神社

田原本町　発掘速報展2025『こんなん出ましたけど』

令和７年３月１日から５月11日にかけて、唐古・鍵考古学ミュージアムにて、発掘速報展『こんなん出ましたけど』を開催しています。

田原本町では、令和６年に８件の発掘調査を実施しました。保津・宮古遺跡の発掘調査で出土した鎌倉時代初頭（13世紀初頭）頃の溝に一斉に投棄された食器類や、現在の田原本町役場の南に、明治～戦前まであった「順生軒」という牛乳屋が販売していた牛乳の瓶といった、昭和十年前後の田原本町民の身近にあった資料を展示します。ぜひ、お立ち寄りください。

■田原本町　戦前のガラス瓶

なら歴史芸術文化村 考古遺物修復工房のミニ展示コーナー

なら歴史芸術文化村文化財修復・展示棟の考古遺物修復工房では、ロビー側にミニ展示コーナーを設置しています。考古遺物の整理・復元作業で使用する道具類の展示のほか、工房で復元作業が完了した考古遺物も展示しています。定住自立圏の３町（川西町・三宅町・田原本町）からの出張展示も不定期に開催しています。

Vol.31まで発行した『天理市埋蔵文化財センターだより』は、Vol.32から『天理市文化財だより』に変わりました。これからも幅広い文化財の魅力を発信していきます。

発行◆天理市教育委員会文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017　奈良県天理市田部町441-2
Tel・Fax　0743-65-5720
印刷◆橋本印刷株式会社